



無意識になる 岩見谷 慎太郎



こし協力隊の募集を紹介していた頂きました。自分に何かできることがあればと思い、応募しました。着任してから今までの半年間は驚きの連続でした。中でも一番衝撃的だったのが街の「空気が」です。仙北市民の皆さんは生活において、無意識に隔たりのない愛、助けあい、偏見なく受け入れる心、信頼、心の余裕を持って生活しています。

初めまして。5月に着任した、岩見谷慎太郎です。出身は横浜市で、18歳から東京を拠点として活動し、15年間ほどDJとして世界を周って活動していました。

DJは体験を創ることが仕事ですが、新型コロナウイルス感染症感染拡大が色々なことを考えるきっかけとなり、自分にしかできない一生に一度、強烈な思い出に残る音楽体験を創ってみたいと思うようになりました。

そんな中、約20年ぶりに訪れた田沢湖の大自然に大きな衝撃をもらいました。東京へ戻ってから田沢湖の大自然のスケールの凄さや、澄んだ空気が水の綺麗さ、人の温かさが体感として自分の中に残りました。

田沢湖でなら心に残る音楽体験を創ることができるかと確信し、仙北市を度々訪れるようになりました。でも、それだけでは物足りず、もっと仙北市のことを知りたくなり、移住を考えていた所、自治体の方から地域お



八幡平ドラゴンマイド。

人を思いやる気持ちは、相手のことを考え、個々に意識するものではなく、「空気」として街に根付いていると気づかれました。この愛に溢れた「空気」の中で暮らすことで、自分もいつか無意識に温かく人に接することができるようになりたいなと思っています。仙北市には本当に素晴らしい大自然が沢山あり、常に視界に入り、季節とともに変化し、柔らかく心を開放してくれます。それを更なる大きな音楽体験に繋げるには、そこに住む人が生む美しい街の「空気」が必要不可欠だと学びました。

着任に至るまで関わってくださった多くの方々本当に感謝しています。現在、自分の経験をフルに活かし、色々なことを企画中です。仙北市、秋田、東北、そして日本のよさを世界に伝えるために頑張りますので、よろしくお願ひします。

またうら

心豊かな教育文化のまち
《仙北市教育委員会だより》
第133号

ドローンの利活用

仙北市は2015年（平成27年）に「国家戦略特区」に認定され、ITを活用した地域課題の解決に取り組んでいます。10月4日、角館中学校で「プログラミングでドローン」を操作しよう」をテーマとして技術・家庭科の授業が行われました。

題材の主な目標は、生活や社会の中から見いだした問題を、プログラミングによって解決する活動を通して、課題を設定して解決する力を身につけることや、プログラムの制作および動作の確認ができるようになることです。本時はドローンの操作を体験する時間でした。操作といっても、ラジコンのようには手元で操作するのではなく、タブレット端末で操作するだけです。タブレット端末でドローンに動かしたい動きをプログラムして動



プログラミングで飛行するドローン。

かすのです。班に1台のドローンが割り当てられ、プログラミングを行いました。思った通りに動いた時には、「やった」と歓声が上がりました。思った通りにいかなかった時には、「なぜだろう」と思考してやり直す姿が見られました。AIの力とその活用の仕方について、考えを深めることができました。1時間でした。

藤澤遥陽さん

実際にドローンを操作することは今回の技術の授業が初めてだったので、とても新鮮な感じがしました。自分たちのグループではドローンの充電が少なくなってしまう、途中で終わってしまいました。難易度が高い操作にも挑戦することができたので楽しかったです。

堀井小夏さん

今回のプログラミング学習では、グループのメンバーと協力して、ドローンを操作することができました。難しい課題の時は、相談して解決方法を考えました。プログラミングが成功して嬉しかったです。今回の学習を日常生活でも生かせるようにしたいと思っています。

にしき園は、高齢や病気で身体機能の衰えた方に日常的な医療やリハビリなどを行い、生活機能の維持向上・在宅復帰をめざす施設です

にしき園だより

— 第30号 —

問 にしき園 ☎47-3211

～ にしき園ってどんな施設？（看護部編）～

今回は「にしき園ってどんな施設だろう？老人保健施設ってどういう施設？」という日常の何気ない「？」のお話をします。

にしき園は「介護老人保健施設」です。介護老人保健施設とは、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために医師による医学的管理のもと、看護、介護といったケアに加え、理学療法士、作業療法士によるリハビリテーションや栄養管理された食事や入浴などの日常サービスまで併せて提供する施設で、以前は「中間施設」といわれていました。

実際は退所して家庭復帰できる方はそう多くはありません。社会的要因として、利用者の高齢化、核家族化、老人世帯の増加、介護度の重度化などが考えられます。厳しい状況下ですが、当施設ではスタッフ一丸となって利用者さまの家庭復帰を目標に、身体機能の維持・増進に努めながら自立支援のお手伝いをさせていただいています。

感染症予防のため、しばらくの間、ご面会はガラス越しで対応させていただいております。その際、ハンディインターホンを使用しての会話が可能となりましたのでご利用ください。

【利用者の状況】

9月末	90人
10月入所	2人
10月退所	3人
10月末	89人

平均要介護度 2.82

介護職員を募集しています。お気軽にお電話ください。



ICTを活用した授業

9月26日、10月14日の両日、西明寺小学校でICTを活用した授業提示が行われました。10月14日は秋田大学の教授なども訪問し、子どもたちや授業の様子を参観しました。

現代社会は情報化が急激に進んでいきます。これに伴い、学校ではICTを活用して生きていくことのできる子どもを育てていくことが求められています。現代の子どもたちにとって、「タブレット」は「ノート」や「鉛筆」と同様の「文房具」になりました。

授業では、タブレットを使って自分の意見を交換し合いました。以前であれば「言葉による説明だけの意見交換」「模造紙を使っての意見交換」が主流でしたが、現在はICTを活用した意見交換に取って代わりつつあります。ICTを活用することにより、(1)資料が作成しやすい、(2)資料を瞬時に共有できる、(3)意見交換が盛り上がるなどのメリットがあります。今回の授業でも、そのメリットが十分に生かされ、子どもたちの話し合いが活性化していました。

仙北市では今回の授業提示の成果を各校



ICTを活用して発表の様子。



タブレットを使って意見交換の様子。

で共有し、さらにICTの利活用にも努めます。新時代を切り拓く資質・能力を育成する、新時代の学校とするべく、研鑽に励んでいきます。

先生方の声

子どもにしてみると音声のみの発表に比べて得られる情報が多く、分かりやすかったと感じました。また、子どもたちのパソコンを扱うスキルも育っていると感じました。ああいう子どもたちが中学校にあがってきたときに、どんな授業を行うべきなのかを考えさせられる授業でした。

話し合いが発達で、子どもたちが育っていると感じました。「話す」を超えて、「語る」「伝える」意識があるのは、普段の積み重ねの成果だと感じました。

大学関係者から

子どもたちが美しく、健やかに育ち、輝いている。

ICTの活用により、全体の場面でも個別の場面でも学びが充実していた。

話し合いによる考えの共有、深化」という市の方針が体現された授業だった。

児童の声

伊藤悠真さん

タブレットに表した自分の考えが、グループのモニターに共有され、すぐに自分の考えを伝えることができました。説明だけでは伝わりにくいことも伝わりやすくなりました。

伊藤咲羽さん

当日は自宅からオンラインで参加しましたが、グループの人たちとの共有画面を指し示しながら、話し合っことができました。画面越しでも相手が何を伝えようとしているのかよく分かりました。